

平成30年度より高等学校での通級指導教室が導入されました。県内では、邇摩高校、松江農林高校の2校で実施されています。これまで高等学校には通級指導教室も特別支援学級も存在しておらず、「特別支援教育」に関する知識が少ない中、時代の変化に対応するため、研修を重ね、学んでいる日々です。

本校では、前回の通信でお伝えした通り、昨年度末よりユニバーサルデザインを意識した授業づくりに挑戦しています。「翔陽スタンダード」と名付けられた以下の3点を全教職員で共有し、授業公開、授業研究、授業アンケートを定期的実施し、振り返りを行ってきました。

高校は義務教育ではありませんが、試験を経て入学してきた個別の支援が必要な生徒を含むすべての生徒が、まずは安心して授業に参加できることが「学力保障」の第一歩であると思います。

安心して参加できる授業づくりのための「翔陽スタンダード」

① 「授業の流れ」を視覚的に示す（授業の最初）

・「この1時間でできるようになること（本時の目標）」を示す

（〇〇を通して、□□に気づき、☆☆できるようになる・・・等）

・「振り返り」を行う（授業の最後）

→授業の見通しが立ち、安心できるからです

② 一指示、一動作

（「～しながら、・・・する」を避ける）

→一度に2つの動作をすると混乱するからです

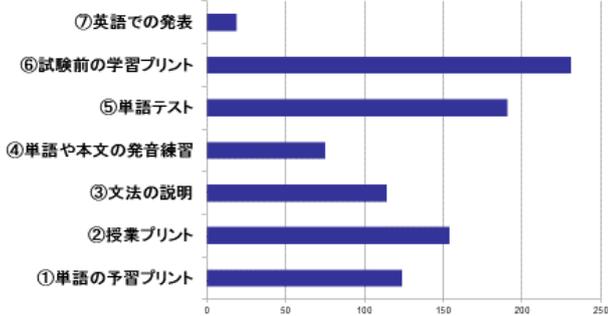
③ チョークの色に規則性を持たせ、その色分けを生徒に周知させる

（黒板に赤色は避ける、使用するなら囲むなどの工夫をする） →色覚特性のある生徒への配慮でもあります

そんなこと、当たり前と思われるかもしれませんが、今の保護者世代の多くが高校時代に受けてきたような「教師による一方的な講義型形式の授業」から、現在はずいぶん変化してきています。支援の必要な生徒への対応、というだけではなく、新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の実現のためにも、まずは「すべての生徒が授業に安心して参加できること」が大前提であると考えます。



Q. 英語の授業で自分に役立っていると思うことは何ですか？



○ 翔陽スタンダードの定着 — 「授業の流れを視覚的に示す」

「授業アンケート」の項目1「目標やねらいが明確であったか」にAまたはBと答えた生徒の割合

学年/クラス	電子機械科	電気科	生物環境工学科	総合学科	AとBの割合
1年	21/22人中	34/35人中	37/37人中	32/33人中	97.6%
2年	29/29人中	22/24人中	34/34人中	38/38人中	98.4%
3年	26/26人中	実施なし	29/29人中	38/38人中	100%
	98.7%	94.9%	100%	99%	98.5%

これらは本校英語の授業の様子と生徒アンケート結果です。ICT 機器を活用すること、授業にさまざまな工夫を取り入れることなど、生徒の意見も反映させながらの試行錯誤です。まだまだ生徒一人一人のニーズに合った支援とは言えず、支援が行き届いていないと不満に思われることもあるかもしれませんが、しかし、現状の環境で、学校でできることは何か、本人が、家族ができることは何か、生徒や保護者の方と歩み寄り、共に考えさせていただきたいと思います。

(文責 龍河)